

令和 5年度 園評価書

園番号 43 園名 小河内こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 重点目標	2 重点目標	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな小河内の子	「おもしろい」をみつけよう	子どもの興味関心を広げた素材や道具を用意し、繰り返し試せる環境づくりをしている	子どもの興味関心をキャッチし素材や道具の種類を変化させることで、「おもしろそう」と自ら遊び始める姿や「もっとこうしてみよう」と考え、遊びが展開する場面やくり返し楽しむ姿が増えた。(色水作り、水路作り、劇遊びなど)「これを使ってみよう」とイメージをもち試してみたいような素材や材料を用意し、選びやすさや取り出しやすさを考え置き方や置き場所の工夫をして環境設定するようになった。	B	B	・子どもの思い、主体的な姿を育むことを大事にしなが保育しているのにB評価になっていることについての聞かせてほしい。(園から右記について説明していく)	・保育者が教材研究をする機会を増やし、遊びを予測し様々なもので試せるよう素材の種類を増やしたり道具を用意したりして、「試す」「確かめる」などの意欲につなげていく ・実体験する中での気づきや学びを大事に“もっと”につなげていく
		子どもが感じたことや考えたことを表現している姿や遊びの過程を捉えた関わりをしている	子どもの声によく耳を傾け、思いを受け止め寄り添うことで考えたことや思ったことを自分の言葉で表現する姿が見られている。そこから子どもと一緒に次はこうしていこうかと遊びがつながるようになっている。子どもが「おもしろい!」と感じている瞬間や遊びの過程を一緒に楽しみながら達成感や喜びなど思いを共有し合っている。	A	A	・保育者が、子どもの遊びに合わせタイミングよく環境を準備できなかったとしても、その子が自分から友達に尋ねたり、同じように試したりして楽しむ姿が見られる。子どもたちのつながりも深くなり、気持ちを一つにして活動に取り組む姿が見られている。振り返りは、子どもにとって今日やったことを整理し、自覚する場となり、見直しをもつことや主体的な姿につながるの	・効果的な振り返りについてを職員間で語り合う(思いを引き出す、掘り下げる、共有化) ・子どもの思いや考えに丁寧に応えやりとりをしていく中で聞く力が身につくようにしていく。 ・子どもの思いや考えを的確に表現していき、相手に伝わるような表現の仕方を理解させていく
		一人一人の思いや気づきを引き出し、分かり合うための仲立ちをしている	振り返りを通して子どもの思いや気づきを保育者が読み取り、それを他児にわかりやすく伝えることで、その子が自分から友達に尋ねたり、同じように試したりして楽しむ姿が見られる。子どもたちのつながりも深くなり、気持ちを一つにして活動に取り組む姿が見られている。振り返りは、子どもにとって今日やったことを整理し、自覚する場となり、見直しをもつことや主体的な姿につながるの	B	B	・保育者が、子どもの遊びに合わせタイミングよく環境を準備できなかったとしても、その子が自分から友達に尋ねたり、同じように試したりして楽しむ姿が見られる。子どもたちのつながりも深くなり、気持ちを一つにして活動に取り組む姿が見られている。振り返りは、子どもにとって今日やったことを整理し、自覚する場となり、見直しをもつことや主体的な姿につながるの	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験の差を考慮し、適切な環境構成や援助を行っている	発達や経験の差を考慮し、参加内容や取り組み方、保育室内で年齢ごとに拠点を分ける、時間の配慮等、環境作りや関わりを変えていった。少人数だからこそ発達、経験の差が見えやすいのでそこを意識した環境作りや関わりについて職員間で情報を共有し合い連携して保育を進めた。それぞれの年齢に合った素材や道具・遊具の設定の工夫をしている。	A	A	・少人数園ということ、人数の多い園への転園か、継続して今年度も保育を受けるか迷ったが、どれだけ子どもの思いを受け止めてもらえていくか、考えると感謝しかない。	それぞれの歳児の発達や姿に合わせてねらいや経験させたいことを明確にし、職員間の連携を図りながら、活動によってはクラスごと活動する場面を意図的につくる。引き続き、年齢・発達に合わせた素材・遊具を考え(教材研究し)環境作りをしていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児数や在園時間に合わせ、安心できる生活や遊びの時間を保障している	一人一人の子どもの生活時間に合わせて落ち着いて生活したり、好きな遊びができるよう配慮しながら保育をすすめる。園全体で子どもの姿を見守り、安心して過ごせるように心掛けている。3名という園児数で、在園時間が異なるので、友だちと遊ぶ時間、一人でじっくり好きな遊びをして過ごす時間、保育者と一対一で安心して遊べる時間などそれぞれの子どものに合わせて時間を保障している。	A	A	良いことも悪いことも受け止め次につなげてくれているので、安心できる場所になっている	午後のそれぞれの遊びも職員間で共有し、その日だけの遊びとして終わるのではなく、遊びがつながるようにしていく。人数が少なくても安心して過ごせるような環境や関わりを工夫していく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	「やってみよう」「おもしろそう」と使いたい素材や道具を選び継続して遊ぶことができる環境を整えている	いろいろな種類の素材や自然物などが手に届く場所に設定されていて子どもが見て考えて試しながら遊ぶことができている。自分たちで積極的に園庭にある自然物を探しに行き、遊びに必要な物を取り活用する姿が見られた。遊びの中で、子どもたちから「こうしてみよう!」「次は〇〇する」などの言葉が多く聞かれた。また、そのつぶやきを捉え、環境の再構成をしている。経験してほしいこと、育てたい力を職員間で出し合い共有した。	B	B		毎日継続してじっくり遊んだり作ったりできるようにテラスなども活用の仕方を工夫する。振り返り時でのおもしろボードの活用を取り入れていく。「今日は何して遊ぼう」「昨日の続きをしよう」とワクワクする保育室の環境を整えていく。子どもの興味関心を捉え、より深まったり広がったり持続するような環境づくりをしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ねらいを明確にした避難訓練や不審者訓練を実施し非常時の判断力を養う。ヒヤリハットした出来事を全職員で共有し安全対策を確認している	様々な事態を想定し職員の判断力を高めるための訓練を実施している。非常時の役割分担についても声をかけあうことで自分自身がどう行動すれば良いか明確になってきている。訓練の積み重ねにより、子どもも避難の仕方が身についてきている。ヒヤリハットは時間をおかずに伝え合い、今後の改善策を話し合い速やかに対策を行っている。訓練の反省を今後活かせるように職員間で共有している。	A	A	・3人の子どもが生き生きと育っている、こども園としてあるべき姿となっている。自分が小さければ入りたいと思える園である。孫がいるが、家庭の事情(子ども夫婦の思いなど)があり、近くの(地域の)園に通えない現状がある。保育者が努力して子どもの将来のために尽くしてくれていることに感謝している	園内外の環境整備を続けていく。また、様々な想定での訓練も続け、臨機応変に対応する力も身につけていきたい。不審者訓練については、交番のおまわりさんから話を聞く機会を復活させていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	基本的生活習慣の自立に向けて、家庭と連携を取りながら個々に合った援助を行っている	生活習慣の自立にむけて、送迎時や面談時に園や家庭での様子を密に伝え合い(発達、性格など)個々に合わせた援助を各担当が保護者と連携し同じ対応ができるようにしている。	B	B		保護者、職員間での連携を図りながら一人一人に関わっていく。関わり方を統一していく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	生活や活動の流れを可視化し、見直しをもって安心して過ごせるようにしている	子どもたちが見通しをもって過ごせるように一日の予定、活動の流れをイラストや写真・時計・カレンダーを用いて可視化している(朝の会、活動前に共有している)。クッキング、小島交流、にこにこ発表会等のいつもと違う活動や環境になっても絵図やボードなどを用いてわかりやすく伝えることで、安心して過ごす様子が見られた。	A	A		特別支援に限らず、引き続き子どもも職員も見通しを持つ内容の共有には写真等を活用した可視化を行っていく。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各分掌が責任を持って発信し、協力して教育・保育を進めている	職員一人の担当する分掌が多い為、リーダーを中心に企画の時点から職員間で意見交換し、方向性や内容を明確にし進めている。職員数が少ないので皆で連携を図りながら、協力し合い進めていける体制ができている。	A	A	・クリスマスなどの行事、公開保育で関わりや連携をもたせてもらった。公開保育の事後研修にも参加する中で保育のあり方を一緒に学ばせてもらいありがたかった	行事、活動、遊びへの取り組み等、園児3名なので、どんな方法だったら無理なく子どもたちらしさを発揮できるか、引き続きねらいを明確にして実施していく。
6 研修	(1)研修体制の充実	日々の振りかえりや園内研修を通して子どもの姿、遊びの過程、環境構成、保育者の関わりを共有している	遊び中、終わった後等振り返りのタイミングを意識している。遊びの様子から環境構成していくことや教材、素材をどう活かすか強化していけるようにしている。月の反省時にはクラスのエピソード検討を通して子どもの育ちをおさえたり、環境構成について考え合い共有している。また、小学校との接続を踏まえ公開保育の観察～協議(事後研)まで参加してもらえよう働きかけ、小学校の先生方とも10の姿を視念に、育ちつつある姿について共有できた。	A	A	・子どもの思いを大事に興味・関心をもてるように、また、園児が主体的に取組めるように関わっている。保育者が更なる高みを目指していく向上心の姿勢が見られる	子どもの興味関心をベースに保育を組み立て振り返りの中から次のヒントを探り、環境を再構成していけるよう月の反省時の読み取りも強化したい。公開保育時の他園からの意見を自園の保育に取り入れていく。(子どもが自分自身で気持ちを切り替える過程を見守るなど、少人数保育の中で子どもに関わりすぎないよう距離感を意識していきたい)
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが繰り返し考えたり試したりできるよう、子どもの発達や興味に沿った環境を工夫している	子どものつぶやきや遊びの姿を捉え、振り返りをするところから子どもの発達、今興味があることが見えてきて環境構成・再構成につなげている。今年度はE S D活動として自園ならではの環境を利用し保育者と一緒に堆肥作りにチャレンジした。草が堆肥になる循環サイクルが子どもたち(3~4歳児)にもわかるよう草取り、米ぬかを混ぜる、作った堆肥で夏野菜や球根の花を育てるなどその都度体験する場を作った。	B	B	・今の教育は小学校の高学年になるにつれ、相対比較され自己肯定感が低下していく。PDCAサイクルにより、頑張ったことを認めながらも、より次の課題は何かと目を向け、否定的に見てしまうのは良くないと思う。幼児期の保育が原点となるのでそこから学んでいきたい。	どんなものを準備したら「おもしろい」につながるのか保育の見通しをもち事前に用意しておいたり、子どもの様子をみながら素材や道具の出し方やタイミングを工夫していく。少人数なのでつい異年齢で過ごしてしまいがちだが、各年齢の発達をおさえた遊びの取り組みは常に意識する。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	遊びの中で育っている子どもの力や保育者の意図を可視化しながら保護者に伝え、子どもの育ちを共有している	今年度は子ども理解のツールとして一人一人の遊びマップを作成し、その子の興味関心の広がりや学期ごと確認しあった。このマップを作成することが保育者にとって子どもの興味や関心を捉え環境構成のヒントになっている。保護者面談時には子どもの興味関心や気づき、育ち、保育者の思いを具体的に伝えていった。また、日々「おもしろいを見つけよう」ボードを作成し(可視化し)、一日の様子や子どもの思いや成長などをわかりやすく発信した。	A	A		引き続き「面白いを見つけよう」ボードで発信していく中で、エピソードや子どもの育ち等丁寧に伝えていく。遊びマップの書き方を工夫し、系統的に整理し、わかりやすくしていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小島地区の目指す子どもの姿に向かい近隣園、近隣校と情報交換したり、交流を深めている	自園は少子化、地域で子育てをする若者の減少化の影響を受け今年度は3名という園児数であるため、様々な世代の人とのつながりを楽しむ場を増やしてきた。園と小学校の交流(学校体験、ふれあい交流、園の運動会への招待)や近隣園の同年齢の友達との交流を大切にしている(園の行き来を喜び、遊び環境が刺激になっている)。中学校の合唱祭の参加をして「縦のつながり」を喜ぶ体験ができた。	A	A		引き続き、定期的に近隣園・近隣校と交流し多人数で遊ぶことの楽しさ、多様なアイディアにふれられる機会を作っていく。小学校の交流については来年度は年長、年中となるため、小学校への親しみや期待につなげていく取り組みを大事にしたい。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の人や自然に触れ、地域に親しまれる園になっている	サツマイモの苗植え、移動販売車での買い物体験、S型デイスービスの方とのふれあい等、園に親しみをもって関わってくれる地域の方とのつながりを大切にしている。収穫したさつまいもと作成した写真ボードを渡し感謝の気持ちを直接伝えている。また、千支づくり(色紙)を通しておげんき会の方々と同じ目的をもって一緒に製作活動に取り組んだり、運動会、発表会で一緒に競技、出し物に参加してもらったりと関わりの中でふれあい楽しい時間が共有できて良かった。地域の方から素材提供があり、クリスマスにはツリーに似た木をいただきサンタさんとのやりとりを活用し、ファンタジーの世界を楽しむことにつながった。	A	A	・園では地域への情報発信はどうか。園のことを知らない人がいる。「いいね」を周りに知ってもらいたい	自園は存続にも悩みを抱えている。少子化+地域で子育てをする若者の減少化と子育てのニーズについて先を見通しながら考えていく必要がある。地域の多くの方にこの現状を知ってもらい行政への発信につながるよう園からも引き続き働きかけていく。地域の様々な世代の方々ともふれあう場を大事にしつながり深めていく。